



燦々と燃ゆる陽



本別高校HP QRコード

伝統行事：本別高校進路クエスト（進路Q）

7月14日（木）進路クエストが行われました。大学・専門学校から11のテーマ（①IT、②理学療法士、③教員、④看護、⑤理美容、⑥調理・製菓、⑦保育、⑧エンタメ、⑨スポーツ、⑩動物、⑪福祉）での講義をいただきました。



①IT



②理学療法士



③教員



④看護



⑤理美容



⑥調理・製菓



⑦保育



⑧エンタメ



⑨スポーツ



⑩動物



⑪福祉

【学校HPより抜粋】

田原 泰 進路指導部長

進路QUESTは、本別高校が進路活動の中で最も大切にしている行事です。

QUESTとは「探索」「探究」「冒険」の意味があります。様々な企業様や学校様に協力をいただき、本別高校と本別中央公民館を使用し「体験型授業」と「進路ガイダンス」を行う中で、生徒たちに多種多様な「体験」と「学び」や「気づき」をしてもらおうという行事です。

山内要一さん 講演(7月15日)

7月15日(金)、本別町教育委員会のご支援をいただき、HBCアナウンサー 山内要一 氏の講演が、本別高校で行われました。

アナウンサーになったきっかけ、野球中継に係る話などアナウンサーとして大活躍してる様子が伺えました。また、3名の生徒によるアナウンス体験など、普段の学校生活ではできない体験をさせていただきました。

アナウンサーという職業だけでなく働くうえで大切なこととして、①笑顔、②人を笑わせられること、③いろいろな技を盗むこと、④挨拶の大切さなどをあげられていました。さらに、将来の夢があるのであれば、自分で道を切り開くことができることなど、生徒だけでなく、私たち大人でも活かせるお話が多くありました。貴重な時間を与えていただいた本別町教育委員会に感謝したいと思います。

講演への質問コーナーでは3年生5人が質問していました。講演後に講演者に質問できることは素晴らしいことであり、大人でもできることでなく立派でした。(笑わせる質問もありました。) 質問の様子から、講演者の話をよく聞き、疑問を持つなど、普段の授業や探究「とかち創生学」などの活動の成果が現れていると感じました。



本別空襲から77年の日

7月15日(金)、本別空襲からちょうど77年目の日です。

1945年7月15日朝、本別町は43機の米軍機の攻撃を受け、本別高校の前身、旧制本別中学校も空襲を受けました。登校の時間帯であったため、校内には多くの生徒がいました。山内三郎教頭は、生徒を防空壕(たこつぼ)に避難させましたが、自らは爆弾の破片を身体に受け殉職しました。

昭和61年、本校の敷地内に慰霊碑が建立されました。当時を知る人はもちろんですが、世代を超えて、歴代の本校職員にとっても7月15日は特別な日となっています。

今年も、山内三郎教頭のお孫さんである、HBCの山内要一アナウンサーが来町され、本校生徒にご講演くださいました。ご自身の経験を交えながら、平和について自分事として考えるきっかけを与えていただき、生徒たちは平和への思いを新たに、風化させてはいけない地域の歴史に思いを馳せていました。(学校HPより) [本校グランド斜面にあるたこつぼ](#)→



防空壕(タコつぼ)